

10周年をむかえて

子ども大学かまぐらの足跡をふり返る

～みんなに支えられて～



2022年4月

NPO法人 **子ども大学かまぐら**

はじめに

2012 年 12 月 1 日の開校式と養老孟司学長による記念講演「勉強ってなあに？」で始まった“NPO 法人子ども大学かまくら”は、創立 10 年を経ました。この間の本学の修了生は延べ 1235 名となり、創立時の 6 年生 30 名余の多くが大学 3 年生で学んでおられると思われます。

当 NPO は、地元の鎌倉市内の小学校高学年生を対象に、年 5 回の定例授業を基本に、学校とは一味違った学びの機会を提供してきました。そこでは、日本の未来を担う子どもたちの「考える力」「応用する力」「判断する力」を培うことを「ねらい」としつつ、「はてな学」「生き方学」「ふるさと学」を展開領域の「学びの柱」に据えて、活動を続けてきました。そして、2014 年度以降には、定例授業に加えて、各学生の個別の関心に寄り添う形で、小人数の希望者対応の特別企画の「体験学習」「ゼミ学習」を毎年数講座提供してきたところです。

こうした活動は言うまでもなく、多方面の教育・研究機関等の教員・研究者や専門家、そして鎌倉市及び同教育委員会と市内すべての公立、私立の小学校に支えられてまいりましたが、それらに加えて、諸 NPO 団体、地元企業、公的文化施設のご支援に依るところが大了。

そして、この 10 年間の最大の難関は、2020 年当初から始まったグローバルな新型コロナウイルス感染症のパンデミックでした。2019 年度の最終授業の中止に始まり、2020 年度全ての授業・講座を中止せざるを得ず、翌年度の授業等の再開準備を、感染リスクを前提にどのように行い、実施に繋いでいけばよいのか悩んだ一年間でした。そして迎えた 2021 年度もコロナ禍の波が繰り返される中で可能な形での最小限に抑制した授業・講座で事業継続の態勢を模索してきたところです。

この冊子は、子ども大学かまくらの 10 年を振り返り、2016～2021 年度の活動を中心にまとめたものです（2012～2015 年度の活動については 5 周年の際に発行した小冊子に掲載しており、「NPO 法人子ども大学かまくら」のホームページからご覧いただけます）。今後もさらなる活動展開を目指して歩んでまいります。これまで受講いただいた学生・保護者、ボランティアそして当 NPO の会員の皆様に謝意を表するとともに、引き続き変わらぬご支援をお願い申し上げます。

2022 年 3 月

NPO 法人子ども大学かまくら理事長 田上 寛

目次

授業一覧・分類	2
授業・講師紹介	10
（1）2016 年度の定例授業	10
（2）2017 年度の定例授業	16
（3）2018 年度の定例授業	21
（4）2019 年度の定例授業	26
（5）2021 年度の定例授業	30
（6）2019 年度の養老学長特別対話ゼミ	33
（7）2016 年度～2019 年度の体験学習	34
（8）2016 年度～2019 年度のゼミ学習	41
（9）2021 年度のオンライン・ミニ企画講座	51
（10）2020 年度～2021 年度の Web 学習支援	52
受講生数と当 NPO の会員数の変遷	56
体験学習およびゼミ学習の参加者数の変遷	57
子ども大学かまくら 5 周年記念シンポジウム	58
協力・支援組織／他の子ども大学等	59
授業風景および新聞等による紹介記事	60

表紙デザインは 2015 年度ゼミ学習を担当いただいた鎌田豊成氏による

NPO法人 子ども大学かまくら 事業実績一覧(2012年度～2015年度)

(1) 2012年度～2015年度の定例授業のリスト

年度-回	講師	タイトル
12-0	養老孟司(子ども大学かまくら学長, 東京大学名誉教授)	勉強ってなあに
12-1	三浦勝男(元鎌倉国宝館館長)	なぜ鎌倉に幕府ができたか
12-2	秋山哲雄(国士舘大学准教授)	なぜ鎌倉にお寺が多いのか
12-3	佐藤美智子(高徳院)	鎌倉大仏のふしぎなヒミツ
12-4	伊藤一美(鎌倉考古学研究所理事)	鶴岡八幡宮のふしぎなヒミツ
13-1	養老孟司(子ども大学かまくら学長, 東京大学名誉教授)	考える力ってなあに
13-2	溝口道郎(元カナダ大使)	外国とのおつきあい
13-3	望月智行(川越胃腸病院長)	夢をもってオンリーワンをめざそう
13-4	高井正俊(建長寺宗務総長)	建長寺ってどんなところ？ お坊さんって何をやるの？
13-5	中村和男(長岡技術科学大学名誉教授) 山崎起助(元三菱電機研究員)	技術が世界を動かす
14-1	養老孟司(子ども大学かまくら学長, 東京大学名誉教授)	なぜ昆虫に興味を持ったのか？
14-2	清水浩(慶応義塾大学名誉教授)	最先端の電気自動車づくりにいどむ
14-3	山形孝夫(宮城学院女子大学名誉教授)	東日本大震災で考えたこと
14-4	山崎直子(宇宙飛行士)	宇宙・人・夢をつなぐ
14-5	奥寺康彦(横浜FC会長)	私のサッカー人生
15-1	養老孟司(子ども大学かまくら学長, 東京大学名誉教授)	人の体の不思議
15-2	志村直愛(東北芸術工科大学教授)	こんなに楽しい『たてもの』の歴史 ～わがまち鎌倉の歴史ある景観～
15-3	松木直也(食育アドバイザー・編集者)	おいしいって、なんだろう？
15-4	吉屋敬(画家・エッセイスト)	名画に隠されたメッセージ
15-5	對比地孝亘(東京大学講師)	恐竜のおはなし ～発掘から復元まで～
		集計

(2) 2014～2015年度の体験学習のリスト

14-1-E	海洋研究開発機構(JAMSTEC)横浜研究所	地球の活動をシミュレーションでとらえる
15-1-E	三菱電機照明(株)(鎌倉市大船)	LEDを使った光の万華鏡を作ろう
15-2-E	中外製薬(株)鎌倉研究所(鎌倉市梶原)	DNAを見てみよう
		集計

(3) 2014～2015年度のゼミ学習のリスト

14-1-S	横川和夫(元共同通信論説編集委員)	ジャーナリストになってみよう
15-1-S	鎌田豊成(元長岡造形大学学長)	デザイナーになってみよう
15-2-S	横川和夫(元共同通信論説編集委員)	ジャーナリストになってみよう
		集計

はてな学	生き方学	ふるさと学	思考力	応用力	判断力	学術(文系)	学術(理系)	実践(自然)	実践(人間)	実践(社会)	実践(産技)	実践(政経)
	○			○		○			○			○
		○	○			○				○		
		○	○			○				○		
		○	○			○				○		
		○	○			○				○		
	○		○				○		○			
	○			○	○	○			○	○		
	○			○			○		○			
	○			○			○		○			
	○		○				○		○			
	○		○				○		○			
	○		○				○		○			
	○		○				○		○			
7	7	6	11	7	2	10	7	3	7	7	2	1
○			○				○	○				
○				○			○				○	
○				○			○				○	
3	0	0	1	2	0	0	3	1	0	0	2	0
	○			○		○				○		
	○		○			○					○	
	○		○			○				○		
0	3	0	1	2	0	3	0	0	0	2	1	0

(1) 2016年度～2021年度の定例授業のリスト

(2) 2019年度の養老学長との特別対話ゼミナール

集計

はてな学	生き方学	ふるさと学	思考力	応用力	判断力	学術 (文系)	学術 (理系)	実証 (自然)	実証 (人間)	実証 (社会)	実証 (産技)	実証 (破綻)
○	○		○		○		○	○				

(3) 2016～2021年度の体験学習のリスト

年度-回	指導	タイトル	
16-1-E	浪川幹夫(鎌倉国宝館)	歴史をたずねる一掛け軸にふれて	
16-2-E	志村直愛(東北芸術工科大学教授)	鎌倉の歴史的建物を巡る	
17-1-E	鎌倉ハム 富岡商工会場(鎌倉市岩瀬)	ソーセージ作りを体験しよう	
17-2-E	志村直愛(東北芸術工科大学教授)	ひと昔前の和の住まいとそのくらし方	
18-1-E	内田直生、他(TOKYO蕎麦塾)	和の食文化“そば打ち”を体験しよう	
18-2-E	青柳正紀、他(鎌倉ドローン協会)	“ドローン”はすごいー 操縦もしてみよう	
19-1-E	近藤茂雄、他(鎌倉ドローン協会)	プログラミングって何だろうー ドローンで学ぶ	
20-***	< 新型コロナウイルス感染症リスクにより実施を断念 >		***
21-***	< 新型コロナウイルス感染症リスクにより実施を断念 >		***
			集計

(4) 2016～2021年度のゼミ学習のリスト(含、オンライン・ミニ企画講座)

年度-回	指導	タイトル
16-1-S	鎌倉・ロボット・ものづくり研究会	ロボット技術を学んでみよう
16-2-S	中村和男(長岡技術科学大学名誉教授)	大震災について体験から学ぼう
16-3-S	浪川幹夫(鎌倉国宝館)	ジャーナリストになってみよう
17-1-S	横川和夫(元共同通信論説兼編集委員)	プログラムでロボットを動かそう
17-2-S	鎌倉・ロボット・ものづくり研究会 & 鎌倉シチズンネット	文章を書くコツを伝授します
18-1-S	横川和夫(元共同通信論説兼編集委員)	文章を書くコツを伝授します(Ⅱ)
18-2-S	志村直愛先生(東北芸術工科大学教授) [協力: 鎌倉歴史文化交流館]	わが町かまくらの景観まちづくりマップを創ろう
18-3-S	中村和男(長岡技術科学大学名誉教授) 清水 浩(慶応義塾大学名誉教授) 風見桂三(動力ネカ技術者) [協力: 韓インダ、韓e-Gle、動力ネカ]	環境とくらしをまもる近未来の住まい・くるまにふれる
19-1-S	横川和夫(元共同通信論説兼編集委員)	文章を書くコツを伝授します(Ⅲ)
19-2-S	志村直愛先生(東北芸術工科大学教授)	わが町かまくらの景観まちづくりマップを創ろう(2)
20-***	< 新型コロナウイルス感染症リスクにより実施を断念 >	***
21-***	< 新型コロナウイルス感染症リスクにより実施を断念 >	***
21-1-O	中村和男(長岡技術科学大学名誉教授)	オンライン・ミニ企画講座「コロナ禍を正しくこわがるために一寺田直彦に学ぶ」
		集計

はてな学	生き方学	ふるさと学	思考力	応用力	判断力	学術(文系)	学術(理系)	実証(自然)	実証(人間)	実証(社会)	実証(産技)	実証(教経)
○	○	○	○	○		○		○		○	○	
○		○	○			○				○	○	
○		○	○	○		○				○	○	
○	○			○	○	○		○		○	○	
○			○	○			○			○	○	
○			○	○			○			○	○	
5	2	4	4	5	1	5	2	1	2	5	4	0

はてな学	生き方学	ふるさと学	思考力	応用力	判断力	学術(文系)	学術(理系)	実証(自然)	実証(人間)	実証(社会)	実証(産技)	実証(教経)
○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
○	○		○	○		○		○	○	○	○	
○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	
○	○		○	○		○		○	○	○	○	
○		○	○	○		○		○	○	○	○	
○	○		○	○		○		○	○	○	○	
○		○	○	○		○		○	○	○	○	
○	○		○	○		○		○	○	○	○	
○		○	○	○		○		○	○	○	○	
○	○		○	○		○		○	○	○	○	
○		○	○	○		○		○	○	○	○	
4	4	3	8	9	1	7	3	2	7	6	3	1

(5) 2017～2021年度の特別企画:クイズ、コロナ禍へのメッセージ		
年度-回	担当講師	タイトル
17-3-Q	吉田亮(東京電機大学名誉教授)	クイズ「炎の不思議～ロースクからロケットまで～」
18-1-Q	久保田 陽彦(豊島屋社長)	クイズ「鳩サブレどこから食べる？」
18-3-Q	水沢 勉先生(神奈川県立近代美術館館長)	クイズ「海辺の美術館に遊びに行こう」
19-3-Q	向殿 政男(明治大学名誉教授)	クイズ「危険は降ってくるが安全は降ってこない」
19-4-Q	直末 奈名子(メーカーズシャツ鎌倉代表)	クイズ「洋服で得する人、損する人」
20-1-M	中村和男(長岡技術科学大学名誉教授)	メッセージ「コロナ禍を正しくこわがるために一寺田直彦に学ぶ」
21-2-M	清水浩(慶応義塾大学名誉教授)	メッセージ「21世紀を生きるみなさんにーコロナ後の新たな車社会のために」
21-3-M	竹村公太郎(日本水フォーラム 代表理事)	メッセージ「地形から学ぶ鎌倉の歴史 なぜ、頼朝は鎌倉に幕府を開いたか？」
21-4-M	直末 奈名子(メーカーズシャツ鎌倉代表)	メッセージ「お洋服は、どこでどうやって作って、そしてお店に並ぶのか？ーアパレル商品のサプライチェーンのお話」
21-5-M	尾崎 文夫(湘南工科大学教授)	メッセージ「おうち時間でしっかり考えよう！」
		集計

はてな学	生き方学	ふるさと学	思考力	応用力	判断力	学術(文系)	学術(理系)	実証(自然)	実証(人間)	実証(社会)	実証(産技)	実証(政経)
○			○	○			○	○				
	○	○		○		○			○		○	
		○	○	○		○			○	○		
○				○			○		○	○		
	○				○	○				○		○
○			○		○		○	○		○		
○				○			○			○	○	
○		○			○	○				○		○
○			○				○		○		○	
7	2	4	5	5	3	5	5	2	5	7	3	3

2016年（平成28年）度 5周年記念講演
的川 泰宣 先生 宇宙工学者・JAXA 名誉教授

「この国と この星と 私たち」

◆2016年5月21日（土）

鎌倉芸術館小ホール

「46億年前の小惑星の鉱物が地球に」

「なぜ小惑星なのか」

「中小企業に部品を発注」

「名前は『アトム』から『はやぶさ』に」

「イトカワ」に2回も着地に成功」

「燃料漏れ、通信途絶え、とピンチ」

「1000個の微粒子をお土産に帰還」



2016年（平成28年）度 第1回授業
学長 養老 孟司 東京大学名誉教授

「養老孟司の世界」

◆2016年5月21日（土）

鎌倉芸術館小ホール

「ラオス、コスタリカ、ブータンを訪ねて」

「ラオスで命拾い」

「オフィスビル入口に大ミツバチの巣」

「コスタリカでの虫捕り」

「毛虫から蛾の生態を追うムシ博士」

「不思議なシロアリ」

「20年前からブータンへ」

「男女で服装文化が違う」



2016年（平成28年）度 第2回授業

竹村 公太郎 先生

リバーフロント研究所参与・NPO 日本水フォーラム事務局長

「歴史と地形 なぜ頼朝は鎌倉に幕府を」

◆2016年7月16日（土）

鎌倉生涯学習センターホール

「地形から見た日本の歴史」
「鎌倉は地形的に三つのナゾがある」

「道や情報はすべて平安京に」

「疫病で悲惨な状態の京都」

「源頼朝は“湘南ボーイ”」

「疫病と流人の流入を恐れた頼朝」

「鎌倉幕府が実現した生態系の循環」

「鎌倉は情報と交通の中継地」



2016（平成28）年度 第3回授業

中山 由美 先生 朝日新聞社会部記者

「南極・北極から地球が見える」

◆2016年9月3日（日）

鎌倉生涯学習センターホール

「南極と北極の違いは？」

南極 日本の37倍、平均2000mの氷でおおわれており、一番厚い所で4800m。地球の氷の90パーセントが南極に

北極 氷の下が海のため氷の厚さは数m。イヌイットなどの先住民が1000年以上前から住んでいる

「南極観測基地で72万年前の氷を取り出す」

会場で南極の氷（国立極地研究所提供）に触れ、溶け出す昔の空気の音を体験（右下写真）

「北極でも進む温暖化」

「蜃気楼で南極の太陽は3つに見えることも」

「どこの領土にもしない南極条約」

“半世紀以上も領土紛争がなく、どの国とも仲良く協力し合っている南極、世界中がこうになったらいいですね”



2016年（平成28年）度 第4回授業

安井 敏 先生 （元）日立製作所主任技師

「人間の生活を変えた鉄道の歴史と車両」

◆2016年12月4日（日）

鎌倉学園 星月ホール

「樽の原理を応用したのが
鉄道の車輪」

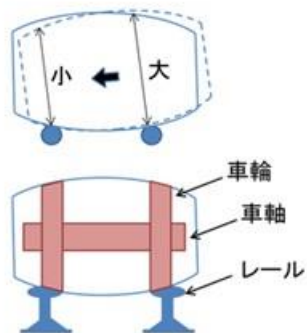
「空気抵抗で方向転換する
飛行機」

「蒸気からガソリン、そして
電気へ」

「新幹線で世界が鉄道を見
直すきっかけに」

「研究者と技術者の違いは何か」

・ワイン樽の運び出し



円錐踏面
↓
案内力

「日本の援助で
パナマに地下鉄
建設」

「なぜ電車は急
に止まらないの
か」

「フェールセー
フが大事な言葉」



2016年（平成28年）度 第5回授業

千葉 優子 先生 宮城道雄記念館資料室長

「日本の音・世界の音～日本音楽の魅力を探る」

◆2017年2月25日（土）

鎌倉学園 星月ホール

「楽音と非楽音が混ざる日本の楽器」

「日本人は音色を尊重する」

「西洋と日本の音楽、それぞれが美しい」

「日本人は自然が大好き」

「演奏の場も石造りと木造の違い」

「日本人と西洋人の脳」

「母音を大切に作る日本人」

「自分の音の世界を広げよう」



2017（平成29）年度 第1回授業

学長 養老 孟司 東京大学名誉教授

「ヨーロッパのお墓の不思議」

◆2017年5月13日（土）

鎌倉生涯学習センターホール

「ペトロのお墓の上にバチカン市国」

「ラオス、ブータンにはお墓なし」

輪廻転生と言って、死ぬとすぐに他の生き物に生まれ変わるので、お墓は必要ない。

「ヨーロッパの土はアルカリ性」

アルカリ性の土に骨はとけないので、ヨーロッパでは骨を飾っている教会があちこちにある。鎌倉の土も酸性ではなく、骨が多く出土するが、お寺におさめている。自分の骨が飾られているのを見たら「戦死した人たちは何と言うだろう」

“ミサイルとかいろいろやっているけれど、いい加減にやめたらどうか。骨を見てごらん”



2017（平成29）年度 第2回授業

梅村 坦 先生 中央大学名誉教授

「仏さまや宝石も楽しんだシルクロード」

◆2017年7月1日（土）

鎌倉生涯学習センターホール

「孫悟空のように世界を飛び回ろう」

「西遊記」は物語ですが、実際にあったことも含まれている。三蔵法師のモデル・玄奘三蔵の旅の記録：大唐西域記
ギリシャからの文化によって仏教で仏像が作られ、その顔は作られた時代や場所が反映されている。

「絹を求めて中国へ長い旅」

絹は貴重でローマ帝国では絹は金と同じ値段で取引されていた

「ミンクの毛皮やサンゴを中国へ」

毛皮やサンゴ、真珠がシルクロードを通して中国へ

「シルクロードを通じて東西文化が融合、東の終着点が奈良の正倉院」 “シルクロードはさまざまな国々の人たちが行

き来して、それぞれの国の宗教や文化や特産品を伝えたり運んだりして融合させた。日本もその影響を受けているのです”



2017（平成29）年度 第3回授業

吉田 亮 先生 東京電機大学名誉教授

「炎の不思議・ローソクからロケットまで」

◆2017年9月2日（土）

鎌倉生涯学習センターホール

「140万年前から人間は火を使う」

「炎を利用してエンジン開発」

「地球温暖化は炎がもたらす害」

地球温暖化や工場の排気ガスなど、炎は人間に役立つだけでなく、被害を与えていることもある

「火には燃料、空気、点火装置の三点セット」

「見えないものを理解するには頭が必要」

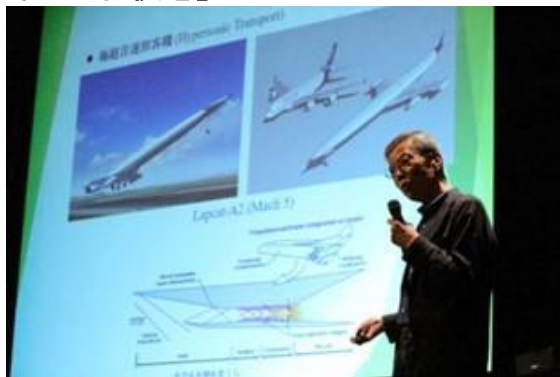
見えないものには頭を使い、考えなければ理解ができない

「炎で起きる複雑な現象」

炎が燃えている時は、目に見えない複雑な現象が起きている

「見えないものを考える習慣を」

“見えるものがすべてではなく、見えないところでいろいろなことが起きています。その見えないものを考える習慣をつけてください”



2017（平成29）年度 第4回授業

安保 華子 先生 NHK プロデューサー

「泣いて笑っての番組づくり25年」

◆2017年12月2日（土）

鎌倉学園 星月ホール

「『男性に代われ』の電話に悔しい思い」

女性ディレクターがまだ少ない時代、さまざまな苦労も

「緊張して原稿を飛ばしガタガタに」

生放送で失敗、やり直しがきかないことから、取材させてもらった人の協力に応えることの意味をかみしめた

「中国取材での貴重な体験」

胡同（フートン）での取材、人々の暮らし、闘コオロギなど、本に載っていないことを自分の足や目で探す楽しさを発見

「取材を通じて自分の子育ても変わる」

何をやりたいか自分自身に問うことで、失敗した時の力になる。痛くて悲しいこともあるが、自分のことをごまかさずに進んで欲しいです”



2017（平成29）年度 第5回授業

飯田 年穂 先生 明治大学政経学部教授

「不可能に挑戦する勇気が自分の発見に」

◆2018年2月4日（土）

鎌倉学園 星月ホール

「知識から想像する力へ」

何事も好奇心が出発点

「外国に行ってワクワクしよう」

異文化体験の中で衝突やショックを受けた時、「じゃあどうしたらいいのかな？」と考えることが大事

「ヨーロッパの山は道具が必要」

「失敗から学ぶことが大事」

「困難」と「危険」は異なる、十分な準備と学びで「困難にチャレンジする」

「いい指導者にめぐり会うこと」

“高所恐怖症も
「やるしかない！」
という決心と「技術」
で克服できる。困難
に挑戦することで己
を発見できる”



2018年（平成30年）度 第1回授業

久保田 陽彦 先生 豊島屋社長

「鳩サブレーどこから食べる？」

◆2018年5月13日（日）

鎌倉芸術館小ホール

「日本で初めて登場したバター味のお菓子」

「正解はない鳩サブレーの食べ方」

「さまざまな工夫と仕掛けがある包装」

「初代が決めた味、形、大きさは変えません」

「鎌倉の四季をイメージした和菓子作りも」

＜菓子職人による生菓子づくりの実演＞

「鎌倉市民に喜ばれるおいしいパンを」

「鎌倉大好き、みんな笑顔で」



2018（平成30）年度 第2回授業

学長 養老 孟司 東京大学名誉教授

「君たちに伝えたいこと」

◆2018年7月14日（土）

鎌倉生涯学習センターホール

「環境について」

破壊された生態系は戻らないが昔のままの里山が三浦半島の小網代にある。鎌倉周辺は江戸時代よりも森が豊かに。

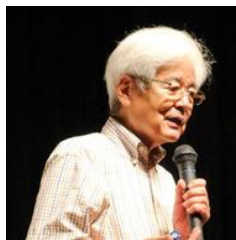
「君たちの身体のなか」

体の中には100兆ものバイキンがいる。生態系としては一つで一緒に暮らしている。君たちの身体は多国籍に。

「君たちは不思議だと思わないかな？」

毛虫とチョウは別な生き物。クジラも昔は陸地に住んでいたが、遺伝子を調べるとカバが親せき。

ネコはなぜしゃべらないのか？それは絶対音感を持っていて、同じ言葉を異なる音の高さで話すと、音の高さの違いを先に捉えてしまうから言葉の意味を考えなくなる。君たちが目で見たもので判断してしまうのと同じ。考えないですませるナマケモノになりがちです。



2018（平成30）年度 第3回授業

水沢 勉 先生 神奈川県立近代美術館長

「海辺の美術館に遊びにゆこう」

◆2018年9月8日（土）

鎌倉生涯学習センターホール

「日本で最初の公立近代美術館」

敗戦後、連合国の支配下で建設、自分たちの分野を守り育てようという強い思い

「イサム・ノグチのこけしの彫刻」

アメリカと日本をつなげる作品を目指した、激動の時代に平和を求め、日本文化を再スタートさせたシンボリックな作品

「彫刻のある美術館に」

移動したイサム・ノグチのこけしがきっかけで彫刻美術館に山口牧生さんの大きな彫刻、人に触ってもらって完成する

彫刻はどこかちょっと違う、気になるような置き方が大切

“美術館で見た作品をスケッチ、まわりの光や照明の具合などもメモすると絶対に忘れません。是非、美術館に来て、自分の目や体で彫刻と置かれた場所のハーモニーを感じてください”



2018年（平成30年）度 第4回授業

柴崎 由紀 先生 銀の鈴社・鎌倉ペンクラブ会員

「世界に誇る国際人『新渡戸稲造』 —『武士道』ってなんだろう？」

◆2018年12月8日（土）

鎌倉学園 星月ホール

「日本はすばらしい国」

「なぜ「武士道」を英文で書いたか」

「日本人も西洋人も同じ人間」

「武士道は今に受け継がれている」

新渡戸稲造から学ぶ

- 1) 「ありがとう」の気持ちを大切にしよう
- 2) 目の前にあることを全力でやってみよう
- 3) この世に生まれて大きな目的・人のために尽くす



2018年（平成30年）度 第5回授業

尾崎 文夫 先生 湘南工科大学教授

「ドラえもんがやってくる？ —ロボット・AIって知ってる？」

◆2019年2月23日（土）

鎌倉学園 星月ホール

「ドラえもののすごいところは」

「ロボットを動かすための3要素は」

「産業ロボットからスタート」

人間型ロボットは大きく進化、今は認識技術（人工知能）とロボットの動きを組み合わせるような研究が盛んに

「進化するお片付けロボット」

「自動運転車で砂漠を200キロ走行」

「ぼやけた数字も鮮明化技術で判読可能に」

「絵を描き、作曲までする人工知能」

「顔写真から年齢などを識別」

「ニュートラルネットとは」

人工知能がベースにしているディープラーニング機械学習で一番使われているモデル



2019（令和元）年度 第1回授業

古賀 良彦 先生 杏林大学名誉教授・精神科医

「脳と香り、そして睡眠」

◆2019年6月16日（日）

鎌倉芸術館小ホール

「小学生の1日が基本」

ちゃんと寝ると元気に

「記憶の取捨選択をするレム睡眠」

「睡眠と覚醒はコインの裏表」

昼間、しっかりと起きて脳を働かせると、夜にはゆっくり脳が休み、必要な記憶がしっかりと脳に刻み込まれる

「脳の活性化には1日3食」

お日さまの光を浴びる、そして3食きちんととること

「脳の働きをよくする青魚」

「香りや紅茶も効果を発揮するが、においては勉強の邪魔に」

「ストレス解消に3つのR」

Rest,
Relaxation,
Recreation」

寝る前に塗り絵、布団の中で「あー、あー」と声を出す、呼吸法



2019年（令和元年）度 第2回授業

中森 貴太 先生 鎌倉能舞台・観世流シテ方

実演協力／善竹 富太郎 先生 大蔵流狂言方

「能楽の楽しみ方」

◆2019年7月6日（土）

鎌倉芸術館小ホール

「能楽は世界一古いお芝居」

「能の観客は武士、庶民は歌舞伎に」

「明治時代には能楽を国劇として保護」

「般若は女性のやきもちの顔」

「装束も独特な文化」

＜中森先生と善竹先生による狂言のせりふの実技指導＞



2019（令和元）年度 第3回授業

向殿 政男 先生 明治大学名誉教授

「危険は降ってくるが安全は降ってこない」

◆2019年11月24日（日）

鎌倉商工会議所ホール

「安全につくられていても、安全ではない」
「事故はどこでも起きる、発生するプロセスがある」

ヒヤリハットで事故を回避できる

危険に近づかない、近づくなれば機械などを止める、設計ミス
をしない、安全装置を付ける、それでもダメなら逃げる

「包丁は安全か、危険か」

「『許容不可能なリスクがないこと』が安全」

「フェールセーフとフルプルーフ」

「危険検出型より安全確認型」

「小さいリスクを残して体験させ、大きなリスクを避ける」

「安全に対する信頼感が安心に」

“安全には制度・技術・人間が大切、安全は皆でつくるもの”



2019年（令和元年）度 第4回授業

貞末 奈名子 先生 メーカーズシャツ鎌倉常務取締役

「洋服で得する人、損する人」

◆2019年12月7日（土）

鎌倉学園 星月ホール

「洋服で人生の生き方が違ってくる」

「どんな人かは見た目で判断」

「大切な洋服の組み合わせ」

「ブルーベースとイエローベース」

「自分に似合う色を見極める」

「素敵なお洋服で人生を楽しむ」



2021年（令和3年）度 第1回授業

桂 勲 先生

国立遺伝学研究所名誉教授・総合研究大学院大学名誉教授

「自然観察から生命科学の研究へ」

◆2021年7月17日（土）

鎌倉芸術館小ホール

「書物ではなく自然を学べ」

「神戸川（ごうどがわ）にアユがいた」

「仮説から予測、そして検証へ」

「不思議だと思えることが科学の芽」

「海の魚を飼うことで科学者に」

「生命科学とは何か」

「生命倫理や研究不正など、科学の周辺に新たな課題が」

「科学では解決できない問題も」



2021年（令和3年）度 第2回授業

杉山 勇人 先生

鎌倉女子大学短期大学部准教授

「漢字文化と文字の成り立ち」

◆2022年2月20日（日）

鎌倉芸術館小ホール

「文字の表現が『書』の面白さ」

「なぜ筆を使って字を書くの？」

「つながっている筆とパソコン

（フォント）の文化」

「文字は歴史をつくっている」

「草書や行書のあとに楷書がで

きた」

「漢字の最初は骨に刻まれた甲骨（こうこつ）文字」

「絵から生まれた漢字」

「漢字の字体は『文字の骨組み』」



「昔の字体はルーズだった」

「いろいろある『逗子』と『鎌倉』の字体」

「手書きで自由に文字を書こう」

文字の文化、日本の文化を受け継いで、ぜひ守ってください

2021年（令和3年）度 第3回授業

長島 知正 先生

早稲田大学理工学研究所招へい研究員

「言葉ってなに？」

◆2021年10月30日（土）

鎌倉芸術館小ホール

「言葉を使うことと、ものを知ることの共通点」

「言葉のキーワードはカテゴリー」

「言葉の伝わる仕組みを明らかにしたソーシャル」

「大切な音声・文字・意味の対応関係」

「『言葉の意味』は、言葉が指示する物のカテゴリー化」

「哲学者カント『認識は言葉なしのカテゴリー化判断による』」



2019年（令和元年）度 夏期特別講座

学長 養老 孟司 東京大学名誉教授

「養老学長との特別対話ゼミナール」

◆2019年7月23日

鎌倉市福祉センターのボランティア活動室

養老学長から「これまでのように大勢の学生に対し私が一方的に話すのではなく、少人数の学生と対話してみたい」との希望・提案が出され、31名の参加を得て実施された

「虫ってなんだ」「あぶない虫はいるの？」

「勉強は役に立つの？」

「面白いと一生懸命になる」



2016年（平成28年）度 体験学習A

指導 浪川 幹夫 先生 鎌倉国宝館学芸員

「歴史をたずねる―掛け軸にふれて」

◆2016年8月3日

古都鎌倉の文化財に触れる体験を通して、歴史を読み解く意味や文化財の扱い方、そして学芸員の仕事に目を開いてもらうことを学びのねらいとした

- ・ 関東大震災の後に開かれた国宝館
- ・ 閻魔王が裁き、お地蔵さまが救ってくれる
- ・ 博物館展示室の中は冷え過ぎ？
- ・ 掛け軸を出して／しまう体験を一人ひとりが・・・
- ・ 大きな掛け軸の古地図を読み解く



2016年（平成28年）度 体験学習B

指導 志村 直愛 先生 東北芸術工科大学教授

「鎌倉の歴史的建物を巡る」

◆2016年10月15日

景観上重要な建物に指定されている鎌倉の別邸洋館を中心に巡り、明治から昭和初期の建築文化の特徴と鎌倉の近代史を体系的に学んだ

- ・ まちの中で貴重な西洋館や近代和風建築を学べるかまくら
- ・ 吉屋信子記念館 ― 和風の中に現代的で自由な工夫が
- ・ かまくら文学館 ― 海に見える丘の上の元前田家の洋館
- ・ かいひん荘鎌倉 ― 和洋の古いガラスが独特の風情をみせる



2017年（平成29年）度 体験学習A

指導 鎌倉ハム富岡商会のスタッフ

「ソーセージ作りを体験しよう」

◆2017年7月24日

地元の名産品「鎌倉ハム」を作り続けてきた工場を訪ね、ハム・ソーセージの製造の歴史・方法を見学するとともに、腸詰ソーセージ作りを自分たちで体験し、試食してみた

- ・ソーセージ作りの材料と道具を学ぶ
- ・5名1組で食材を混ぜる作業から始める
- ・長い腸詰を区切って輪にして仕上げる
- ・手作りソーセージの山を平らげる
- ・工場を専用通路から見学—作業員は低温の室内で



2017年（平成29年）度 体験学習B

指導 志村 直愛 先生 東北芸術工科大学教授

「ひと昔前の和の住まいとその暮らし方」

◆2017年8月15日

霊源閣は、大正期に実業家・山本条太郎により創建された別邸で、100年近くもその状態が保持されている和風住宅は、鎌倉でもめずらしい。この建物を実際に目の当たりにし、肌で触れる

- ・3つの体験に3つのグループで順次取り組む
- ・体験1「自分の家にも『あるある～ないない』もの探し」
- ・体験2 「寸法を測ってみよう！『大きさ比べ』」
- ・体験3 茶室で茶の湯を体験しよう



2018年（平成30年）度 体験学習A

指導 内田 直生 先生、他 TOKYO 蕎麦塾

「和の食文化“そば打ち”を体験しよう」

◆2018年8月9日

“そば”の歴史・位置づけとともに、その材料に触れ、打ち方を匠の皆さんから学ぶ。小グループで伝統的な道具による“そば打ち”を実際、自ら体験、試食した

- ・初めに和の食文化「そば打ち」についての説明がなされた
- ・模範打ち（水回し、こね、のし、切り）の見学
- ・まずそば粉の香りを楽しみ、そば打ちを目の前で見て覚える
- ・「打ち粉は最後にどうなる」「微妙な水の加え方が難かしそう」
- ・打ち立て／茹で立ての試食で、多くの学生達がお代わりを



2018年（平成30年）度 体験学習B

指導 青柳 正紀 先生、他 鎌倉ドローン協会

「“ドローン” はすごいー 操縦もしてみよう」

◆2018年8月3日

近年、上空からの観察・撮影や物資輸送のための遠隔操作による飛行体・ドローンの活躍が注目されている。その飛行原理や機能、活用分野や使用上の心構えなどについて学習するとともに、小型の実機モデルで操縦操作を体験した

- ・高度1万メートルへの飛行、噴火口内部への飛行の動画紹介
- ・シミュレータではPC画面上を飛び回る操作をコントローラで
- ・トイドローンの操縦では10m離れて置かれた標識パイロン間の往復、旋回、フロア指定位置への離着陸などを体験



2019年（令和元年）度 体験学習

指導 近藤 茂雄 先生、他 7 名 JKDA 理事・関係者

「プログラミングって何だろう ドローンで学ぶ」

◆2019年8月8日 午前の部と午後の部の2クラス

ドローンについての飛行原理や機能の学習に続き、プログラムを使ったドローン飛行を実際に体験することで、手動と違った確実な飛行プログラムが有効であることを、自らプログラムを書くことで学習してもらった

- ・ドローンの概要、プログラミング言語についての説明
- ・プログラミング実習では、各チームにトイドローン、iPad と作業メモ用紙が配られ、担当指導員のガイドで進められた
- ・飛行課題「自宅から山向こうのお爺さん・お婆さんの家にお土産をドローンで届けるための飛行プログラムの作成」
- ・成果発表会での実演飛行の披露



2016年（平成28年）度 ゼミ学習A

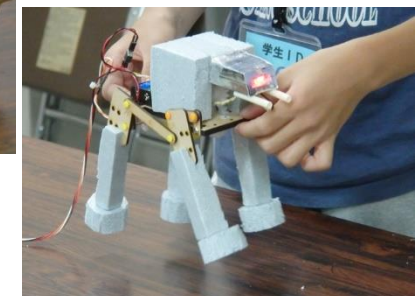
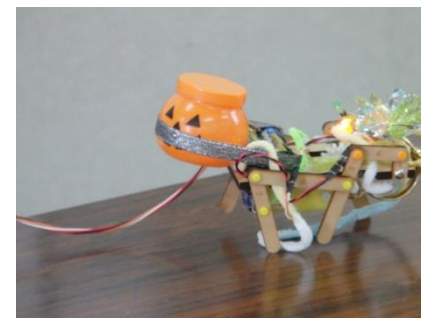
講師 山本修先生 他 鎌倉・ロボット・ものづくり研究会

「ロボット技術を学んでみよう」

◆2016年9月11日、17日、25日（補講10月1日）

ロボット作りを通して、科学的原理と技能の基礎、モノづくり（ハード、ソフトということ）、技術者像の体験的理解をめざした

- ・「4足歩行ロボットの工作（その1）」（ベースロボット組立て）
- ・「コイルの働き」（コイルモーター製作実習）
- ・「4足歩行ロボットの工作（その2）」（各自で部品追加、装飾をほどこし、オリジナルロボットへの仕上げ）
- ・作品発表会



2016年（平成28年）度 ゼミ学習B

講師 中村 和男 先生 長岡技術科学大学名誉教授
浪川 幹夫 先生 鎌倉国宝館学芸員

「大震災について体験から学ぼう」

◆2016年10月22日、11月5日、19日

東日本大震災を経験し、いま南海トラフ大地震や南関東大地震などへの備えが求められる中、過去の大震災への模擬体験を通じた防災への知恵を自ら獲得しよう

- ・「大規模地震などの模擬体験」（横浜市民防災センターで）
- ・「大震災の被災・避難所の体験談、鎌倉市津波シミュレーション映像を踏まえた防災意識の学びあい」（最近の国内の4つの大震災と関東大震災から見えてくるもの）
- ・「鎌倉の歴史に見る大地震や津波の被災地視察」（関東大震災による由比ヶ浜／長谷／坂ノ下付近の津波の被災跡を体感）



2016年（平成28年）度 ゼミ学習C

講師 横川 和夫 先生 元共同通信論説兼編集委員

「ジャーナリストになってみよう」

◆2016年10月29日、11月26日、1月21日

〔第1回〕 ジャーナリストにとって一番大切なことは、好奇心と問題意識を持って、質問すること（各自、講師へのインタビューで記事を書いてみた）

〔第2回〕 インタビュー原稿について、良かった点、改める点などについて話し合い、各自「この1年」というテーマで作文
〔インタビュー実践〕 第4回授業で安井先生にミニ記者として
〔第3回〕 「この1年」の作文を、内容ごとに文章を分けし、小さな見出しをつけ、伝えなかった順に並べ変えて書き直した



2017年（平成29年）度 ゼミ学習A

講師 山本修先生 他 鎌倉・ロボット・ものづくり研究会
／鎌倉シチズンネットスタッフ

「プログラムでロボットを動かそう」

◆2017年7月26・27日、8月2日、7日、9日

〔第1回〕「FabWalker を組み立てる」

各チームの自作ロボットにつけてもらった名前

light／ショコラ／ブラックロボ／ロボワン／カワセミ

鎌くん／勇者チビちゃん／ルーナ／ロボ太郎

〔第2回〕「プログラミングの基礎

（1）LED をついたり歩かせたりしよう」(Studuino によるプログラミング)

〔第3回〕「プログラミングの基礎

（2）センサーを使ってみよう」（ぶつかりや明るさの検知で行動を変える）

〔第4回〕「オリジナルのペットロボットを作る（発表会）」



2017年（平成29年）度 ゼミ学習B

講師 横川 和夫 先生 元共同通信論説兼編集委員

「文章を書くコツを伝授します」

◆2017年7月21日、25日、28日

〔第1回〕 文章を書くための約束事（字はマス目いっぱい、書き出しや改行での一マス空け、センテンスは短く切る、5W1Hの要素を忘れない）。テーマ「7月20日」で作文

〔第2回〕「7月20日」の文章の添削結果を共有し、「いま夢中になっていること」というテーマで作文

〔第3回〕 文章を「かたまり」の集まりとしてみて、それらの間の関係を上手につなぐことで文章のよい流れができる。テーマ「将来の夢」で作文



2018年（平成30年）度 ゼミ学習A

講師 横川和夫先生 元共同通信論説兼編集委員

「文章を書くコツを伝授します II」

◆2018年7月27日、30日、31日

相手の言うことを理解し、自分の考えを深め、相手に伝える能力が求められている。文章を書くためのコツを3回の連続講座で実習を通して身につけてもらう

〔第1回〕 人工頭脳で対応できない文章表現

「文は人なり」； 「夏休み」という題で作文

〔第2回〕 全員の「夏休み」を皆で評価し、共有； 説得力のある文章について学び、「自慢できること」という題で作文

〔第3回〕 作文のコツは、出された題にひっかけて、「頭の中で作り出された物語」を仕上げる



2018年（平成30年）度 ゼミ学習B

講師 志村直愛先生 東北芸術工科大学教授

「わが町かまぐらりの景観まちづくりマップを創ろう」

◆2018年8月17日、20日、23日

鎌倉のまちなかを踏査し、その風情や景観特性を共有した。続いて、ヒアリングや取材、資料調査を通じて、その内容、作られ方、経緯などを明らかにし、マップの解説素材を集めた。写真撮影、イラストなど工夫を凝らし、コースマップを作成した

〔第1回目〕 取材踏査「わが町かまぐらりの素敵な景観を探そう」

〔第2回目〕 掲載記事の選考「みんなに見せたい景観を選ぼう」

〔第3回目〕 景観マップ作成と発表会「素敵な景観マップをデザインしよう」
（協力：鎌倉歴史文化交流館）



2018年（平成30年）度 ゼミ学習C

講師 中村 和男 先生 長岡技術科学大名誉教授
清水 浩 先生 慶応義塾大学名誉教授
風見 桂三 先生 (株)力ネ力技術者

「環境とくらしをまもる近未来の住まい・くるまにふれる」

◆2018年8月7日、21日、22日

地球温暖化は人間の活動に伴うCO₂の多量排出と関わっている。温暖化ガス排出を抑えエコロジカルな暮らしを進めるために、生活関連のゼロエネルギーハウスおよびインホイールモーターによる電気自動車の開発に挑戦する企業の先進技術を実感した

〔第1回〕「環境とくらしをまもる生活製品とは」

（製品づくりから使用・廃棄まで低炭素排出化）

〔第2回〕「電気で効果的に動かすクルマづくりに挑戦」

（高効率な電力活用と運転の自動化）

〔第3回〕ゼロエネルギー消費の家づくりをめざす

（高度省エネ住宅と太陽エネルギー活用）

（協力：(株)イソダ、(株)e-Gle）



2019年（令和元年）度 ゼミ学習A

講師 横川和夫先生 元共同通信論説兼編集委員

「文章を書くコツを伝授します Ⅲ」

◆2019年7月25日、26日、29日

女子力に圧倒されたゼミ学習講座。参加した学生は女子ばかり。最近の世界経済フォーラム報告書では、男女平等の順位で日本は低迷。しかし彼女たちが社会参加する10年後にはトップに浮上か
〔第1回目〕「私」という題です。「だれにも書けないことを、だれにもわかるように書く」という作文のコツを伝えた

〔第2回目〕前回の作文を全員で読み、評価を行った。つぎに「夏休み」「忘れられない出来事」「先生」という題で作文

〔第3回目〕前回の作文はどれも個性的で、料理の仕方が違ってて、読ませるものばかりだった



2019年（令和元年）度 ゼミ学習B（3回連続）

講師 志村 直愛 先生 東北芸術工科大学教授

「わが町かまぐら」の景観まちづくりマップを創ろう(2)」

◆2019年8月19日、21日、23日

鎌倉のまちの景観に注目、観光地や商店街、住宅地などを含めたまちなかを踏査し、景観の特徴、魅力を抽出。各人の景観まちづくりマップ作成した（協力：霊源閣）

- ・ 1日目：取材踏査「わが町かまぐらの素敵な景観を探そう」
- ・ 2日目：景観マップ掲載記事の選考「見せたい景観を選ぼう」
- ・ 3日目：発表会「素敵な景観マップをデザインしよう」



2021年（令和3年）度 夏期ミニ企画講座（3回連続）

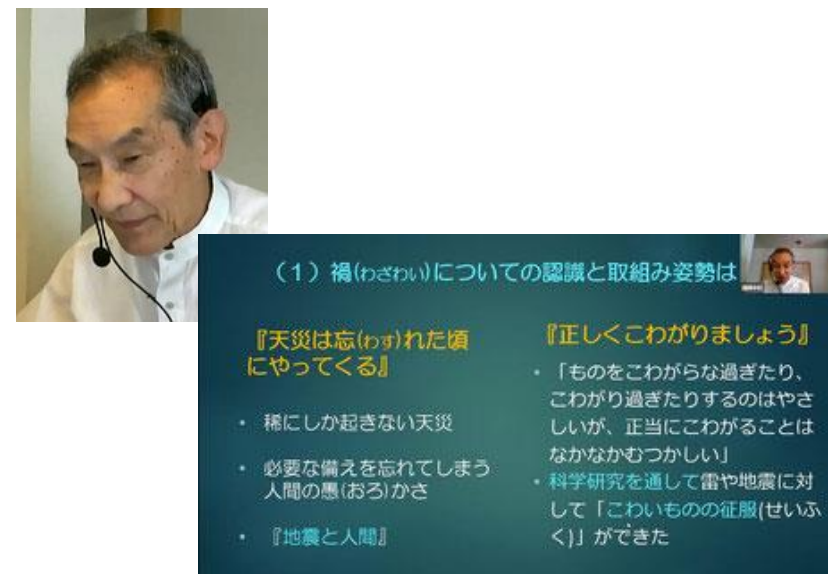
講師 中村 和男 先生 長岡技術科学大学名誉教授

「コロナ禍を正しくこわがるために — 寺田寅彦に学ぶ —」

◆2021年8月9日、10日、11日

明治～昭和初期の物理学者で寺田寅彦のエッセイ集『科学と科学者のはなし』を取り上げ、コロナ禍を科学的な視点で観察・理解し、ただ“こわがる”のではなく、“正しくこわがり”、それに対処することをオンライン・ライブで学んだ

- ・ 1日目：コロナ禍についての認識と取組み姿勢は
- ・ 2日目：物理現象としての感染の仕組みは
- ・ 3日目：社会現象としての感染の伝わり方は・生態系における感染への対応は



No.1 中村 和男 先生(長岡技術科学大学名誉教授)

「コロナ禍を正しくこわがるために
—寺田寅彦に学ぶ—」

- ・ 禍についての認識と取組み姿勢は
- ・ 物理現象としての感染の仕組みは
- ・ 社会現象としての感染の伝わり方は
- ・ 生態系における感染への対応は



No.2 清水 浩 先生(慶応義塾大学名誉教授)



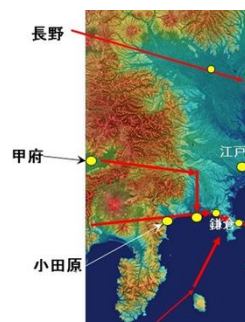
「21世紀を生きるみなさんに
—コロナ後の新たな車社会のために—」

- ・ ワクチン接種が進むことで
- ・ 温暖化問題は解決しなければ
- ・ 電気自動車に変わることで
- ・ 安全、快適な新たな電動車いす

No.3 竹村公太郎先生(日本水フォーラム代表理事)

「地形から学ぶ鎌倉の歴史 なぜ、頼朝は鎌倉に幕府を開いたか?」

- ・ 疫病蔓延対応への鎌倉幕府の英知
- ・ 湘南ボーイ、頼朝
- ・ 不潔な京と清潔な鎌倉
- ・ 日本近代は三浦半島から



No.4 貞末奈名子先生(メーカーズシャツ鎌倉代表取締役)

「お洋服は、どこでどうやって作って、そしてお店に
並ぶのか? — アパレル商品のサプライチェーンのお話」

- ・ 「アパレル業界」もパンデミックで深刻な影響を受け
- ・ 地産地消を柱とする「サプライチェーン」の重要性
- ・ 綿糸から生地、縫製工場でシャツができるまで
- ・ 日本の縫製工場を維持し世界中がほしが「日本製のシャツ」を提供していく



No.5 尾崎 文夫(湘南工科大学教授)

「おうち時間でしっかり考えよう」

- ・ コロナ禍の今だからじっくり考える癖をつけよう



- ・ ロボット・AI(人工知能)はどこまで進んでいるのでしょうか?

*Boston Dynamics の Atlas のパルクールはどこまで出来ている?

*AI を使ってみよう

2020～2021 年(令和 2～3 年)度 WEB 学習支援(Part II)
クイズに挑戦しよう!

2019 年度第3回授業のクイズ(向殿 政男 先生)

「危険は降ってくるが安全は降ってこない」

- 第1問 危険は大別すると自然災害、悪い人間のすることと[]?
- 第2問 「ヒヤリハット」で事故を回避できた場合を英語では?
- 第3問 専門家は安全とリスクとの関係をどうとらえていますか?
- 第4問 技術で安全を守るときの「フェールセーフ」とは?
- 第5問 リスクは大きいものから小さいものがあるが対応のし方は?

2019 年度第4回授業のクイズ(貞末 奈名子 先生)

「洋服で得する人、損する人」

- 第1問 「鎌倉シャツ」のお店の誕生時の主な商品は?
- 第2問 「洋服で人生の生き方が違って来る」との話しの理由は?
- 第3問 洋服を自分に合わせるときの色の組み合わせのルールとは?
- 第4問 前問の色の組み合わせについて 10 色を2グループに分けて
- 第5問 洋服の色を自分に合わせるとき体のどの部分を見ればよい?

2018 年度第1回授業のクイズ(久保田 陽彦 先生)

「鳩サブレどこから食べる？」

- 第1問 豊島屋のお店が創業したのは明治／大正／昭和?
- 第2問 豊島屋の初代が鳩サブレを創ろうと思ったきっかけは?
- 第3問 鳩サブレの包装には割れにくいようにどんな工夫が?
- 第4問 鳩サブレの形や大きさについて守っていることは?
- 第5問 鎌倉五山という生菓子がありますが、その由来は?

2020～2021 年(令和 2～3 年)度 WEB 学習支援(Part II)
クイズに挑戦しよう!

2018 年度第3回授業のクイズ(水沢 勉 先生)

「海辺の美術館に遊びに行こう」

- 第1問 県立近代美術館は 1951 年に開館。国公立としての順番は?
- 第2問 近美・葉山館に鎌倉館から移した「こけし彫刻」の制作者は?
- 第3問 海庭岸近くの葉山館でサクラの花が咲かない理由は?
- 第4問 庭にある御影石の太い角棒彫刻(長さ 3m,断面 1m)の重さは?
- 第5問 近美・葉山館と鎌倉館の作品数は全部でどのくらい?

2018 年度第5回授業のクイズ(尾崎 文夫 先生)

「ドラえもんがやってくる？」

ロボット・AI って知ってる？」

- 第1問 ドラえもんがすごいのは、どんなことができること?
- 第2問 ロボットの3要素は、センサー、コンピュータと[]?
- 第3問 近くの障害物接触を防ぐために使っている車のセンサーは?
- 第4問 ロボットの状況判読で使われる人工知能(AI)の特徴技術は?
- 第5問 ロボットには不可能とされたが最近挑戦されている分野は?

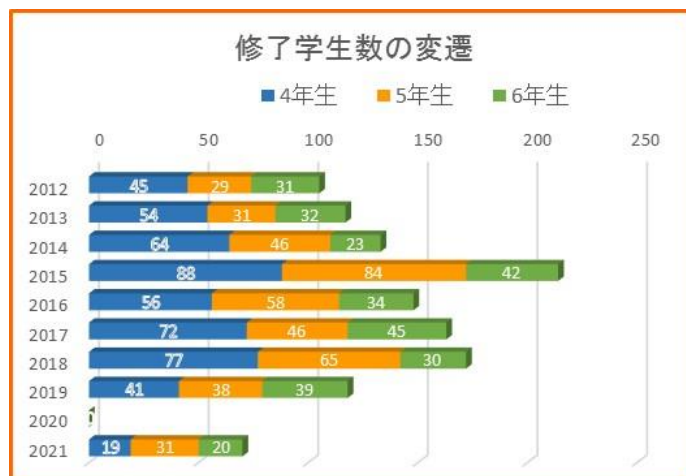
2017 年度第3回授業のクイズ(吉田 亮 先生)

「炎の不思議～ローソクからロケットまで～」

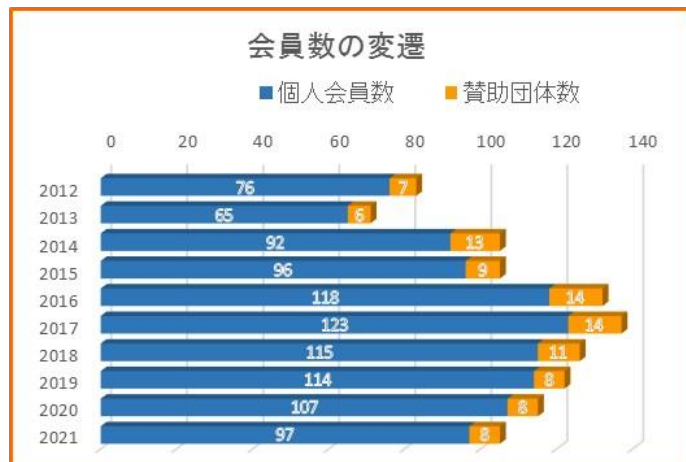
- 第1問 原始人が火を使い始めたのは[]万年前?
- 第2問 モノを燃やすと出てくる地球温暖化をもたらす物質は?
- 第3問 火をつけるに燃料、空気とともに必要なモノは?
- 第4問 ローソクは固体燃料が炎で溶け液体に、蒸発で[]に?
- 第5問 名著「ローソクの科学」を書いた英国人の名前は?

受講生数と当 NPO の会員数の変遷

学生は、毎年募集され、年5回の定例授業を受講できる。利用可能な会場の規模もあり、募集人数は、概ね 100～150 人で変動してきた。ただしコロナ禍により 2020 年は非開講、2021 年度は縮減された。

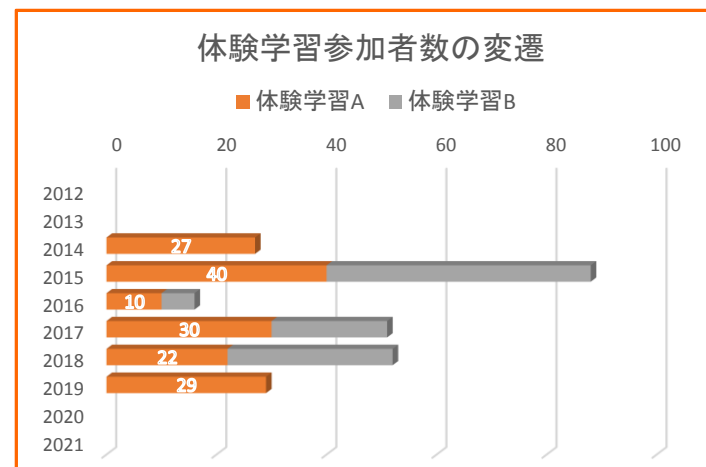


NPO 法人子ども大学かまくらは個人会員と賛助団体の会費によって支えられてきたが、近年の会員数は減少傾向にある。

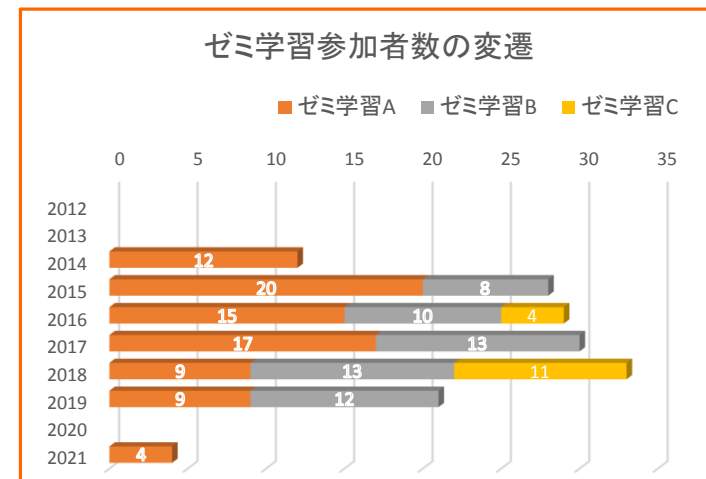


体験学習およびゼミ学習の参加者数の変遷

2014 年度から、毎年入学した学生の内、希望者には定例授業とは別の企画講座として、年2～3件の体験／ゼミ学習が開講されてきた。



体験学習では、自ら五感で感じ、体を動かして学び取ることを、ゼミ学習では、数回の連続講座を積み上げて、知や感性を深める学びを目指してきた。



子ども大学かまくら 5周年記念シンポジウム

基調講演 熊代徳彦 前鎌倉市教育長

パネリスト 川越、横浜、鎌倉の子ども大学の代表3人
渡邊公子 鎌倉市市民活動センター前理事長

「次世代を担う子どもを育てるために—子ども大学の意義と課題—」

◆2016年7月23日 午後1時半～4時

[基調講演] 自分で考え、解決していく力を身につける

[子ども大学かわごえ] 高校生が先生のユニークな体験学習

[子ども大学かまくら] 会場の確保が大変

[子ども大学よこはま] 地域が広すぎ学生募集に苦労

[NPO支援の立場から] もっと高校やNPO団体と連携を



協力・支援組織と他の子ども大学等

[協力・支援組織]

行政関係組織

鎌倉市(後援)

鎌倉市教育委員会(後援)

助成金等による支援組織

Azbil みつばち倶楽部(2012～2021 年度助成金)

NPO 支援鎌倉ファンド(2012,2013,2015 年度助成金)

国際ソロプチミスト鎌倉(2013 年度助成金)

授業会場の提供寺院・学校

建長寺

円覚寺

大仏殿高德院

学校法人・鎌倉学園

[これまでの賛助団体]

(株)イソダ、FC 小坂エルオンセ、(有)英和住宅設備工業

温古堂、(株)鎌倉三衣、(有)晃陽住宅設備

(有)ZINGY ZAP Enterprises、 寿司正

TESSコーポレーション、(株)トキオ・テック、(有)徳しば

トップ保険サービス(株)、 トップリスクマネジメント(有)

野田の湯、(株)荻野屋、阪神瓦斯産業(株)

(有)三日月堂花仙

[他の地域の子ども大学等]

NPO 法人 子ども大学かわごえ(交流・連携)

NPO 法人 子ども大学よこはま(交流・連携)

授業風景および新聞等による紹介記事



2017 年度第 5 回授業
鎌倉学園星月ホールにて



2019 年度第 2 回授業
鎌倉芸術館小ホールにて



2021 年度第 3 回授業
鎌倉芸術館小ホールにて



「NHK NEWS web」記事より
(2016/05/21)



「タウンニュース」記事より
(2019/8/21)

10 周年をむかえて
子ども大学かまぐらの足跡をふり返る
～みんなに支えられて～

2022 年 4 月 1 日発行

発行/NPO 法人 子ども大学かまぐら

発行人/田上 寛

表紙デザイン/鎌田豊成

印刷所/ラクスル株式会社

子ども大学かまぐら HP <https://www.kodomodaigaku-kamakura.jp/>



<問い合わせ先>

NPO 法人 子ども大学かまくら

理事長 田上 寛(たのうえひろし) 事務局 〒247-0062 鎌倉市山ノ内 1383

Tel: 0467-23-3156 HP URL: <http://www.kodomodaigaku-kamakura.jp/>